

国営常陸海浜公園 みはらしの里「里の家」

国営公園・郷土景観・民家活用



■広いソバ畑と「里の家」

■主旨・内容

「みはらしの里」は、なつかしい村の風景と活動をテーマに、古民家や畑等を中心とした園地整備によるエリアであり、古民家整備を段階的に行い、村づくりの物語を展開する。村づくりは3つの段階による整備を想定しており、本業務は、そのための準備段階として、活用拠点となる「里の家」及び付属施設の基本・実施設計を行ったものである。

「里の家」と名づけたこの建物は、もとは水戸市の北側に東流する那珂川の右岸、水戸市小泉町下环(旧常澄村)に建っていた農家であり、もとの間取りや部材を最大限活かしつつも、快適性を高めるように、高断熱・高気密など様々な工夫を行ったものである。「里の家」では、里の「食」をテーマとして、主に常陸地域に伝わる伝統食や行事食づくりなどの活動を行う予定である。



■「里の家」



■休憩所



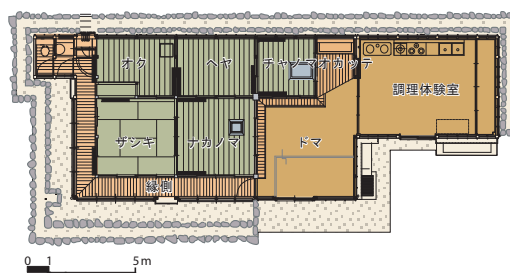
■トイレ



■農具庫

里の家づくりの工夫

- もとの農家の面影を残すための工夫
可能な限り古い木材を再利用しました。現在は、天井で隠れて見えませんが、桁や梁の多くは古い材です。新しい材は着色しないで使うことで、材の違いがわかるようにしました。
- 活用するための工夫
四季を通じて活動に使えるよう、断熱性・気密性を高め、空調機器の効率を上げました。
農具を洗う時に使えるように雨水貯水タンクを設けました。



■諸元

公園名称： 国営常陸海浜公園
 施主： 国土交通省 関東地方整備局
 国営常陸海浜公園事務所
 所在地： 茨城県ひたちなか市
 敷地面積： 6.1ha (みはらしの里)
 対象面積： 2,000m²
 業務内容： 基本設計・実施設計
 設計期間： 2006.09～2008.03